



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和元年12月24日

じりっし、誰かの役に立つ“めんごい”子…

校長 菅原 透

今日はクリスマスイブ…。サンタさんはプレゼントを届けてくれそうですが、寒さをもたらす将軍様到着はまだですね。

さて、2学期が終了しました。みんな笑顔でこの日を迎えられたのが一番。これも、保護者・地域の皆様の力強い支えによるものと心より感謝いたします。

今学期のキーワードは“じりっ”と“誰かの役に立つ”。明るく楽しい学校生活をつくる“あいさつ”は、児童会計画委員による自己採点でついに100点になりました。自分達でがんばり続けてきたことが学校全体に広がった瞬間に私も立ち会いましたが、子ども達からは、自然に歓声と拍手が起こりました。“じりっ”した貴重な一コマです。様々な行事もがんばりました。運動会の閉会式や学習発表会の全校合唱はまさに感動の嵐でした。

“じりっ”がすすんだことの証です。

優しい心も育ちました。登校や清掃時の縦割り班活動では、高学年が下級生をしっかりと面倒しました。きょうだい学級のなかよし活動で交流も深まりました。面倒を見た上級生、それにあこがれた下級生、この思いも成長の起爆剤でした。私自身、毎朝のルーティーンで子ども達の心の成長を感じ取ることができました。それは、寒くなってきたからのあいさつ運動

のこと。手が冷たいので、私も校長室で手を十分温めてから臨むのですが、子ども達の仕草に心がポカポカ。両手で包んで握手する子、手袋を外して握手する子。しっかり力を入れて握手できる子が増えました。それから、私の前で時に渋滞も発生するのですが、わざわざ待って握手する子も増えてきました。私の期待に応えてくれる子が…、いえいえ、あいさつの心地よさを感じて気持ちの良い学校生活を始めようとする子が生まれてきました。嬉しいことです。(2学期は6名増えて278名になりました。毎日こんなに大勢のめんごい子ども達と握手できるのです。うらやましいでしょう！)

それから、たくまバンドの継続。地域の皆様に元気を届け、子ども達自身には“琢磨の誇り”を持たせるもの。産業フェアでは、青い空と緑の芝生に映える見事な姿を披露しました。本校の伝統として今後も磨き続けます。

平成が幕を閉じ、令和がスタートした記念すべき2019年もあとわずかです。東京オリンピックも開催される2020年が皆様にとって良い年になりますように…。琢磨っ子にとっても今年度の締めくくりがしっかりとできる3学期にしてまいります。